

クローバーグループ連携事業「俳句」：ちやまを詠む：

第十一回 令和四年度春夏（三月～八月）の部 入賞作品

テーマ 「勝山の四季折々」を詠む

選者

勝山市俳句協会 会長
勝山市俳句協会 理事

石畝 千恵子
はばた みち恵

特選 濃く淡く艶めく城の夜の桜 福井県勝山市 山岸 祐子

選評

城が持つ歴史をカラフルに描き出してくれました。何代にもわたり人の生き死にを見てきた城の艶めかしさが「夜桜」で厚みを増しています。三蓮の形容が活きました。勝山城はまだ三十年と城の中では新しい方ですが、この句で名城のお墨付きを得たようです。勝山のシンボルとしてこの城を育ててまいります。

特選 糸緑りの蚕の匂ひ廻しをり 石川県小松市 上村 富美子

選評

少し前の時代のこと。文語を使用することで格が上がりました。廻すのは糸緑りではなく匂いである。これで俳句に詩になりました。映像だけでなく「匂ひ」を感じさせることで臨場感が増しました。かつての工女さんも納得の一句でしょう。

特選 蝉しぐれ僧兵のごとし平泉寺 福井県勝山市 斎藤 ケサミ

選評

句は三段切れになっていますが、夏の平泉寺をよく表しています。六千坊は蝉しぐれほど賑やかだったことでしょう。良い意味でも悪い意味でも。歴史を書き換えることはできませんが、その栄華は一瞬で燃え尽きました。蝉も時期が終われば一瞬で閑かになります。栄華に思いをはせながら大杉の森を散策して来られたのでしょうか。木陰に僧兵が隠れています。

入選 おしろではいろいろのぶしがまっている 神奈川県相模原市 小林 えま

入選 走りやんこの纏まとの一投花の坂 福井県勝山市 野尻 敦子

入選 水入る田に白さぎや勝山城 京都府京都市 菱川 奈津子

入選 きょうりゅうおやきとはたおりたのしみだ 福井県丹生郡 山本 桐花

入選 おだやかな暑さやわらぐ大仏の顔 千葉県柏市 水谷 輝子

入選 春なれど白におおわれ平泉寺 福岡県北九州市 川名 恵子

入選 は順不同